

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第八小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	・全体としては、全教職員で組織的な取り組みができています。 ・個別には、全体で確認した事項の取り組みにばらつきが見られることがあり、共通理解を共通行動にしていきたい。	A	・目標達成に向けて校長先生を中心に取組ができていていると思います。学校行事でも全職員で工夫改善に力を注いでいることがよくわかります。 保護者アンケートの値が低下しているのは何故か検討する必要がありますと思います。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	・「事故回避能力を身につけた子どもの育成」を重点目標として指導に当たった。事故回避能力の定着のため、まずは廊下右側歩行や赤レンガ歩行を第一に事故を未然に防ぐ啓発を今後も継続していく必要がある。	A	・廊下の立て看板やテープでの線引きなど、地道な作業であるが努力している様子が見られる。子どもたちにわかりやすく、効果が高いと感じます。 ・メールにより不審者等の情報が配信され、情報共有ができています。 ・教職員の目の届かない廊下や休み時間に事故が起っています。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・読み書き計算などの基礎学力については、反復学習等により徹底を図っている。また、指導方法や学習形態を工夫して、基礎学力の向上に取り組んだ。 ・個別指導の場や家庭学習を工夫するとともに、学習内容を授業の中で繰り返し活用することにより、確実な定着を図っていく。	B	・学校での反復練習や家庭学習により基礎学力が身に付いていっていると思います。基礎学力が確実に身に付くよう、さらに教育力を向上させて欲しいです。 ・先生方の努力が児童に伝わっていないところも見られます。基礎学力は児童にとって大切なので、身につくように家庭でも見守れるとよいと思います。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・児童の実態をもとに「学力向上プラン」を作成し、児童の躰きに対応した指導の実践に努めた。 ・学力調査関係の集計・分析は、テスト直後に多面的に行い、課題を明確にし、その後の回復指導につなげていく。 ・引き続き、校内研修等の充実を図り、教師の授業力向上に努める。	B	・学力調査の結果に基づいて今後の課題を見付け、目標付けしていると考えられます。 ・先生方はいろいろと工夫して授業を進めています。宿題のプリントもわかりやすく作成されています。 ・方法を見つけ出して先生方に時間の余裕を作って頂き、児童に目を向けられる心のゆとりが持てればと思います。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・生徒指導年間指導計画に基づき、規律ある態度の育成に向け、毎月、生活目標の振り返りを行った。また、学習ルールについて、各学級で学年に応じた指導を各担任が具体的に指導した。 ・「規律ある態度」が身につけている児童とそうでない児童の差があり、丁寧な指導が必要である。	B	・あいさつや廊下歩行など、基本的なことは少しずつ改善されていると感じます。 ・あいさつ、返事等の項目で、保護者の評価が前年度より低くなっています。学校だけでなく、保護者との連携が大事だと感じます。また、先生への態度や言葉遣いなど、友人ではないので指導は大切だと思います。先生方の連携も必要です。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・「八小の一日のきまり」について、全職員で共通理解し学期ごとに一斉に読み合わせ日を決め指導にあたったが、各家庭の価値観も多様化し、徹底を図れていない部分がある。今後はきまりの見直しや職員の共通行動、家庭への情報提供を行うなど、規範の徹底について一層推進していく。	B	・先生による差が大きい。各学年の先生方の統一性のある態度や指導が必要だと思います。 ・多人数にもかかわらず児童のことをよく見て頂いています。ただ、「この子は悪い子」という先入観を持ち続ける先生・保護者もいます。クラスで何かが起こったときに「その子に違いない」と決めつけず、子どもの話を聞く必要性を切に感じます。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・なわとびや持久走など、季節ごとの取り組みに、児童は主体的に取り組んだ。 ・全体として外遊びをする児童は多いが、外に出ない児童の固定化との二極化がみられる。 ・体育授業や学級活動の工夫により、運動や外遊びに取り組む意欲を引き出すようさらに工夫を図っていく。	A	・サンサンタイム、昼休みに多くの児童が校庭で元気に遊んでいます。 ・体育授業を見ても、運動好きな子が多いと思います。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・体育朝会、ノーサッカーデー、水泳教室や鉄棒教室などを実施し、体力向上と技能向上に取り組んだ。また、教材教具の工夫等により投力向上の課題解決に努めた。 ・小学校体育授業研究会の発表校として授業公開を行った。今後も指導方法等、工夫改善に努め、「運動好きな子の育成」を推進する。	A	・基礎を教えるなど体力向上に取り組まれていると感じます。 ・持久走、陸上大会、球技大会、大なわとびなど行事があり、目標を持って運動に取り組めることはよいと思います。 ・カード(なわとび、鉄棒、持久走、体力アップ等)を作成、活用してよいと思います。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・学校応援団による学習支援は、生活科や図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間と多岐に渡っている。 ・保護者、地域の方々への思いを受け止めながら、積極的に情報発信を行い、相互理解を図ると共に、より効果的、現実的な連携の在り方について、検討していく。	A	・八枚のはね、103の会、民生委員、町内会等、学校は保護者だけでなく地域と連携して成果を出していると思います。 ・103の会の行事にも多くの先生が参加して下さいっており、連携していると感じられることが多いです。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・保護者、地域の安全ボランティアをはじめ自治会、民生委員児童委員の方々には積極的、主体的に児童の見守りや学校支援に取り組んでいただいている。 ・読み聞かせでは学校応援団や読み聞かせの会等の協力を得て児童の読書に関する関心を高め、豊かな情操を育成した。	A	・保護者と地域による通学路のパトロールなど、学校と協力し合い安全指導が進められています。健全育成についても地域の方の協力により改善が図られたと思います。 ・ふれあいまつり等、地域や保護者の協力により、よい環境が作られています。 ・保護者の協力はまだまだ不十分。協力する人少ない人と、人によって大きな差があります。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満